

干す小佐野俊之(勝山)大爆発!

県体育祭りスケート部総合優勝

2月11日におこなわれた山梨県体育祭りスケート競技会(セイコ・オーバル)において、富士河口湖町体育協会スケート部が、3年ぶりの県大会総合優勝に輝いた。



エースの小佐野俊之(勝山)が個人で5000m、1500mと二冠、また、2000mリレーでもアンカーとして、せまる小淵沢町の追撃をかわし、優勝へと導いた。

特に、きついマークを受けた男子1500mでは、倉沢敏武(勝山)、霜村孝(大石)の吉田高校の先輩2人が小佐野をサポートし、ラスト100mでの逆転へとつなげた。



大健闘!小立ミニバス 県3位

全国ミニバス山梨大会



全国ミニバスケットボール大会への代表権を争うUTY杯が、1月16日・23日・30日にわたって行なわれ、小立ミニバス(女子)が出場7チームの栄えあるベスト4に勝ち残った。第3シードとして出場した今大会、シードチームらしく順調に勝ち上がり、決勝進出をかけた準決勝で、第2シードの下二小に、接戦の末敗れたものの、素晴らしい戦いで観客を沸かせた。

また、船津ミニバス女



子も健闘し、ブロック優勝し、ベスト16まで勝ちすすんだ。チームを引っ張ってきた6年生たちは、今大会で引退となるが、ぜひこの成果を後輩たちがさらにつなげてほしい。

第17回山梨県スポーツ・レクリエーション祭の出場チームを募集します。

種目	種別	開催期日	会場地	参加資格等
マスターズ陸上競技	男子・女子	5月22日	甲府市	男子40歳以上、女子35歳以上
年齢別ソフトテニス	男女、混合	5月22日	笛吹市	45歳以上男女各1組 50歳以上1組
ラージボール卓球	男子・女子	5月21日	甲府市	40~50歳代男女各2名、60歳以上1名
ボウリング	混合	5月21~22日	甲府市	20歳以上男女各2名
綱引き	男子・女子	5月15日	富士吉田市	男女とも20歳以上8名以上
バウンドテニス	男女、混合	5月22日	甲府市	男子、女子、混合各ダブルス3組
ターゲットバードゴルフ	男子・女子	5月22日	甲府市	20歳以上4名まで、1チーム
インディアカ	混合	5月22日	甲斐市	20歳以上の男子2名、女子4名以上のチーム
ウォークラリー	混合可	5月29日	富士吉田市	3~5名のチーム
マスターズ水泳競技	男子・女子	5月22日	甲府市	30歳以上
カヌーツーリング駅伝	混合可	5月22日	鵜沢町・身延町	年齢不問 3名以上

申し込みは3月11日(金)までに町民体育館まで
 問い合わせは町民体育館 73-1220 各競技とも申し込み順で受付します。

名木樹の香りと暮らし展 — 久保武夫（船津）—

展示期間 3月8日（火）～3月24日（木）

久保さんは1997年に建築業を止めたが、それまで50数年間触れてきた木のぬくもりが忘れられず、花のプランターや花瓶・花台などを制作しています。制作した作品は県高齢者作品展や町文化祭の他、道の駅「かつやま」では展示販売しています。

木の種類は松、杉、樺、紅葉、イチイ、柿、緑樹、櫻、桐、白樺、猿滑りの変木を使っています。杉材は燻して水洗いしながら木目を浮かし磨いています。

一つひとつの作品の形が違うのが楽しみ、命ある限りいろんな作品を作り続けたい、とおっしゃっています。



我が家の
の主演



相澤 優羽ちゃん
平成14年5月31日生まれ
「お友達と遊ぶのが大好きです。」
父；克仁 母；陽子（小立）

「我が家の主演」は、皆さんの家庭のかわいいお子さんを紹介するコーナーです。
小学生以下のお子さんを対象に掲載しますので、掲載希望者は、申し出てください。

スポーツ安全保険のお知らせ



スポーツ活動、文化活動、ボランティア活動などに最適な保険です。



団体	対象	加入区分	対象となる事故の範囲	掛け金 (1人年額)
子どもの団体	・中学生以下の子ども ・子どもの保護者	A	団体活動中とその往復中	500円
	・中学生以下の子ども	AV	団体活動中とその往復中 ----- 団体活動中とその往復中 以外	1,050円
	・子どものスポーツ団体の指導者 (区分での加入もできます。)	AC	団体活動中とその往復中	1,000円
木の団体	・文化活動、ボランティア活動、 地域活動	A	団体活動中とその往復中	500円
	・老人クラブなど(60歳以上。)	B		800円
	・大人のスポーツ活動 (野外活動、身体運動を含む。)	C		1,500円
	・危険度の高いスポーツ活動	D		9,000円

加入区分・掛け金・補償額についての詳しいお問い合わせは、町民体育館内生涯学習課社会体育係、73-1220に電話してください。

富士河口湖古の小径

川口御師おしの檀家廻り

―地域の歴史を探る―

川口（江戸時代はこう表記されました）は御師がいた街として知られています。江戸時代に編纂された『甲斐国志』は川口村のことを「此村は御師職の家が多く農家は少ない」と記しています。

ところで、「一体御師って何なの？」という読者も居られると思いますので、ここで御師について簡単に述べておきましょう。

御師とは「祈祷師」の意で、これを尊敬の意を込めて「御祈祷師（おいのりし）」と呼び、さらに、それを省略して「御師（おし）」と呼んだものです。

平安時代末期に生れ、中世には熊野三山や伊勢神宮等に成立しました。川口村の御師は、中世に入り富士山が信仰の対象となって登拝されるようになり、参詣者が多数訪れたことから誕生しました。そして次第に各御師は参詣者を檀家として組織するようになり、近世になると講の発展とも相俟って檀家との結びつきを一層強め、大変繁盛しました。（ただし、川口の場合は富士講の檀家はないようです。）川口御師の主要な仕事は、富士登拝シーズンにおける檀家の登拝の世話とシーズンオフの檀家廻りでした。

一言で言えば、御師とは神職と民俗経営を兼ねた人ともいえるように思います。

御師の集落としては上吉田も良く知られていますが、川口の御師の成立は中世の早い時期と考えられ、上吉田より歴史が古く、御師の数も多かったのです。江戸時代後期には川口には140軒ほどの御師が生活していたと考えられます。

今述べましたように、御師は各自が檀家を持っていましたが、檀家の人々は富士山に登拝する時は、必ず自分の御師を頼り、そこに宿泊し、被いを受け、登拝のための準備一切を御師に任せました。当然のことながら、その際檀家の人々は御師に志を包んで差し出すわけですが、それは御師の主要な収入になりましたので、御師達も心を尽くして檀家をもてなしたわけでした。登拝シーズンが終わると、今度は御師達が神札と土産を持って自分の檀家の家を回ります。これを「檀家廻り」、あるいは「廻壇」といいますが、その際受け取る初穂は御師にとって良い収入でした。また、大切な檀家をつなぎ止めるためにも、この檀家廻りは御師達にとって極めて重要な年中行事であったわけです。

檀家は集落単位になっているのが一般的ですが、その範囲は県内はもとより江戸・関東地方一円・信州など遠方にわたりました。また、他の御師の檀家には手を出さないというのが御師間の不文律でしたから、各御師は各地にその縄張りを持っていました。

檀家廻りは遠方になると1〜2カ月にもわたって行われました。例えば川口御師三浦家（三浦家は將軍家の御被いを毎年江戸城で行ったことで知られている）の、江戸時代初期の名古屋方面への檀家廻りを見ますと、9月8日に川口を出発し、御坂峠を越えて甲府へ出、甲州道中を進み、塩尻から木曾路に入り、さらに美濃路を辿って名古屋城下に到着するのが10月28日でした。

おめでた・おくやみ

【1月21日から2月20日まで】

おめでた（出生）

お子さん	父	母
笹川 翔 <small>はるか</small>	雅浩	佳揚子
山中溪太郎 <small>のぶ</small>	克哉	直美
鈴木 文乃 <small>あやの</small>	克彦	多恵
梁瀬 里奈 <small>りな</small>	明	寿恵
秋山 光佑 <small>みつたけ</small>	正人	智恵子
梶原 徳香 <small>とくか</small>	一也	夏代
園田 怜冬 <small>れいと</small>	隆	千亜紀
福田 羽希 <small>はるか</small>	正幹	響子
渡邊 瑠美 <small>るみ</small>	誠士	順子
渡邊 大暉 <small>たい</small>	智仁	梨恵
君塚 乃望 <small>ののぞ</small>	直人	真由美
石津 颯真 <small>はつま</small>	英貴	要子
山口 晃正 <small>あきまさ</small>	昌彦	真理子
三浦 冬真 <small>ふゆま</small>	宗治	千絵
櫻井 銀河 <small>ぎんが</small>	哲也	絵美

おくやみ（死亡）

届出人

渡邊喜野枝	65歳	渡邊 敏雄	船津
坂本 長義	83歳	坂本たつ子	船津
角田 聖子	63歳	角田 強	船津
井上さと子	78歳	堀内 直美	船津
梶原 志ま	94歳	梶原亥之雄	船津
小池 大平	92歳	小池 洋	小立
渡邊たま江	76歳	渡邊 洋一	小立

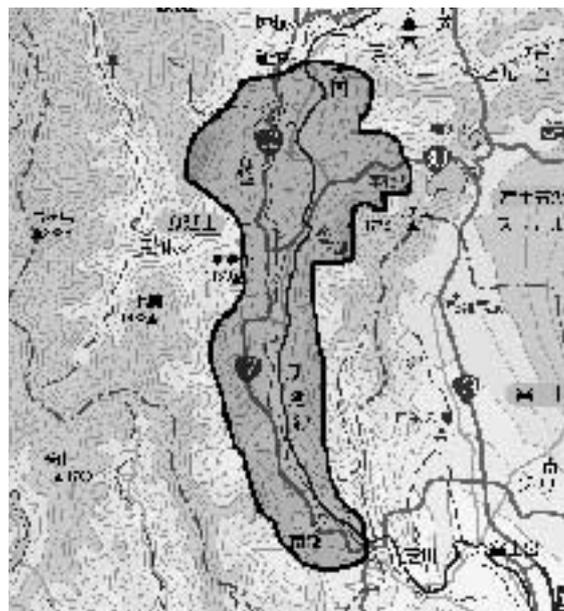
この壇家廻りを記した古文書の記録は名古屋城下の配札（神札配り、即ち壇家廻り）で終わっていますが、復路も考えればこの時の壇家廻りは2カ月を越えたと思われるのです。

壇家廻りの様子を同じ三浦家の幕末の壇家廻り帳でもう一例見てみましょう。この壇家廻りは嘉永6年（1853）の記録で、この年はペリーが来日し、日本に鎖国を止めて開国を迫った年ですが、壇家廻りをした場所は富士川流域の諸村でした。三浦家は県内にも壇家を多く持っていました。逸見筋と呼ばれた北巨摩方面、甲府市西部、そしてここで記す河内地方と呼ばれた富士川の流域が主なものです。この時壇家廻りをした人は、当時の三浦家当主であったと思われる吉郷で、この時28歳くらいであったと思われる。

この年、吉郷は供を1人連れて川口を11月6日に出発し、西湖・本栖經由で六郷へ出、鵜沢・中富・身延・南部を経て富沢まで足を伸ばしています。さらに富沢では万沢・富士の山懐を1週間近くかけて廻っています。およそ人が住んでいる所は隈なく廻るという徹底した壇家廻りですが、逆に言えば、御師は相当辺鄙な山中にも壇家を持つていたことがわかります。復路は往路を引き返しています。往きは富士川の右岸、即ち西側を歩き、帰りは左岸を通って壇家廻りをしております。木枯らしの吹く中、冬枯れの広い川原を見下ろしながら歩いている吉郷の姿が目に見えそうです。

この壇家廻り帳は12月26日の帯那村（市川大門町）で終わっていますので、結局、この壇家廻りは2ヶ月弱にわたったことになり、廻った村数は88村、戸数は約5600軒にのびました。

2カ月に5600軒は多すぎるように思われるかもしれませんが、壇家廻りは必ずしも一軒毎に廻るのではなく、例えば名主に一括して神札を渡し初穂を受けるようなことも多かったのです。



三浦家が嘉永6年(1853)に壇家廻りした地域

期間の長短はありますが、このような壇家廻りを各御師は毎年行っていたわけですが、壇家廻り中には様々な出来事に出会ったことと思われます。病気で苦しんだこともありましたが、様々な災難に遭遇したことも考えられます。色々な事情で、遂に帰郷しなかつた人もいたと思います。水盃を交わして旅に出たといわれる江戸時代のこと、長旅の労苦は大変なものであつたことは想像に難くありません。

そこで次号では、三浦家が安政元年（1854）の壇家廻りの折に遭遇した事件の顛末を、同家所蔵の古文書によって紹介してみようと思います。壇家廻りをした場所は右と同じ富士川流域の村々、安政元年（1854）は前記の年の翌年に当たります。

この年の壇家廻りの記録は残されていませんが、大略前年と同様な場所を廻つたものと思われます。壇家廻りを行った人物は前年と同じ吉郷なのか、その父長盈なのか判りませんが、後で延べる理由で私は吉郷だと考えています。次号へ続きます。

渡邊 行正	71歳	渡邊 正芳	小立
倉澤 昌一	52歳	倉澤 卓美	勝山
渡邊秀次郎	70歳	渡邊すみ系	勝山
伯耆 勝夫	82歳	古谷かつ江	河口
堀内つる子	75歳	堀内 恭忠	大石
渡邊 甲一	76歳	渡邊千賀子	大石
堀内 勝馬	55歳	堀内ふみ系	大石
中村 希男	74歳	中村 正義	大石
三浦弘太郎	65歳	三浦みつ江	西湖南

【おしあわせに（結婚）】

橋本 禎志	石川 朝美	船津
中村 悠一	小泉美沙子	船津
内田 裕之	渡辺 美佳	船津
岡部 宏彦	北之坊奏子	船津
堀内 力也	佐藤めぐみ	大石
渡辺 司	佐藤 明美	西湖南

お詫びと訂正
2月広報 おめでたで間違いがありました。お詫び申し上げます。訂正させていただきます。
(誤) 小佐野利緒 弘樹 美晴 勝山
(正) 小佐野利緒 弘樹 美晴 勝山

人 口		24,139人 (-2)
男	11,843人 (-13)	
女	12,296人 (+11)	
世帯	7,915戸 (-1)	

国民年金・社会保険料相対照
日時 3月22日(火)～4月12日(火)
午前9時30分から午後4時
場所 河口湖商工会
山梨社会保険事務局大月事務所
問合せ 0554223811